

2023年度

科目名称	老年看護学実習
授業コード	BK363
英語名称	Gerontological Nursing Practice 2
学期	2023年度後期
単位	3.0
担当教員	梅崎 かおり (医療科学部), 大原 裕子 (医療科学部), 大西 奈保子 (医療科学部), 山田 正己 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	この実習では、老年期にある対象の特性を理解し、受け持ち患者における必要なニーズを見出して、今まで学習してきた知識、技術を実際の場面を通じて統合し、適切に看護過程を展開できる技術、能力、態度を養う。 【実習目的】健康障害のある高齢者の心身の特性を理解し、高齢者の健康と生活を援助するために必要な知識・技術・態度を修得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	この科目は看護師として医療機関にて高齢者看護の実践経験のある教員が担当する。
到達目標	【実習目標】 1. 高齢者の心身の特性を理解し、看護過程が展開できる。 2. 高齢者の特性に応じて関わっている多職種の専門性を理解し、連携と協働の中で看護の果たす役割について理解できる。 3. 実習を通して自己の洞察を深め、自己の課題を明確にできる。 なお、この科目はディプロマポリシーにある「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力」「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族・地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術」「対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力」「対象者の権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的
計画・内容	原則として65歳以上の入院患者1名を受け持ち看護過程を展開する。 実習日程 11G・12G・13G・14G 2023年9月25日(月)～2023年10月13日(金) 計135時間 1G・2G・3G 2023年10月16日(月)～2023年11月2日(木) 計135時間 4G・5G・6G・7G 2023年11月6日(月)～2023年11月24日(金) 計135時間 8G・9G・10G 2023年11月27日(月)～2023年12月15日(金) 計135時間 15G・16G・17G・18G 2024年1月9日(火)～2024年1月26日(金) 計135時間 各クールとも梅崎(Ns)、大原(Ns)、山田(Ns)が担当する。 実習病院は原宿リハビリテーション病院、埼玉みさと総合リハビリテーション病院のいずれかとなる。各病院の教員担当および学生配置は事前に連絡する。

2023年度

<p>授業の進め方</p>	<p>【事前学習について】 実習前に受け持ち患者の情報を提示する。(病名や既往歴、ADLなど) 提示された患者情報をもとに疾患や看護技術について自己にて学習すること。 【学内実習について】 実習初日は学内にて実習オリエンテーションを行う。また事前学習の確認や必要に応じて学習の追加、基本的な患者の移動技術の確認を行う。 その他の学内実習に関しては面談、記録の整理、実施するケアの準備等を行う。 【臨地実習について】 65歳以上のリハビリテーション病院に入院している高齢者を1人受け持ち、看護過程を展開する。またリハビリテーション病院における多職種連携や多職種の中での看護の役割について学習する。適宜、カンファレンスを行い、看護上の問題、看護計画、看護援助について検討する。カンファレンスでは他者の学びから自己の学びを深められるようにすること。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>実習前に受け持ち患者の情報を提示するので、受け持ち患者に合わせた疾患や加齢変化の理解や看護技術に関する学習が必要となる。 臨地実習については、実際に患者を受け持ち看護を展開していく中で、知識や技術、看護師として必要な態度の習得のために、能動的に学び続ける必要がある。 またカンファレンスについては自己の意見や学びを積極的に発言し、他者の学びを得ることで、自己の学びを深められるよう努力すること。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>1. 事前課題について ・事前に提示された患者情報に基づく事前学習を実習初日に提出すること(実習用ファイルに綴じておくこと) 2. 実習記録に関して 実習記録は教員の指導を受けられるよう自己にて適宜進めること。実習時間外に毎日3時間程度の自己学習が必要となる。 授業時間外の学習に関わる時間は個人の進捗状況により異なる。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>必要時担当教員が提示するが、老年領域の講義で使用した教科書や講義資料のみでなく、成人看護援助論 やリハビリテーション看護論、専門基礎科目(生体機能学、栄養代謝学、病態治療学など)の教科書や講義資料を活用すること。 【参考図書】 ・山田律子・井出訓編：生活機能からみた老年看護過程 ・堀内ふき編：ナースング・グラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害(メディカ出版) ・堀内ふき編：ナースング・グラフィカ 老年看護学 高齢者看護の実践(メディカ出版)</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>事前学習や実習における看護援助(実習態度、意欲を含む)、カンファレンスの参加状況、実習記録から総合的に判断する。(80%) 文献を使用し、自身の行った看護について振り返り、作成したレポートの評価(20%)</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>必要に応じてその都度、口頭もしくは実習記録へのコメントの付与によってフィードバックを行う。 また学内実習中の面談を通して援助技術や患者への関わり、実習態度についてコメントを行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>CampusSquareを参照</p>
<p>留意事項</p>	<p>実習オリエンテーションについては事前に掲示等で連絡するため、必ず出席すること。 自身の健康管理に留意し、実習を行うこと。また感染症には注意を払い、体調に不安がある場合は、すぐに担当教員に報告・相談すること。</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>感染拡大により臨地での実習が困難となった場合にはオンラインを使用した非対面授業も検討する。 実習内容が変更になった場合には、変更した実習内容を事前に学生に周知するとともに、評価方法に関して丁寧なオリエンテーションを行う。</p>